

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフ土浦第3支援教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 9日		～ 令和 8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会、職員の意見等を把握する機会を設けており、第三者による外部評価を行い、その内容を業務改善につなげている。	月1回の全体ミーティングで業務内容の共有ができており、各教室でも共有あり。 また、本部の方とも連携して評価結果を共有している。	教室内と全教室合わせたミーティングを月に数回、共有を行い保護者様の意見や職員の意見を出し合ってよりよい教室になるようにしていく。
2	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしている。 また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしている。	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができています。 3月の成果発表会やフェスティバルの開催を通して地域交流を行っている。 年2回子どもの支援対応、方法については面談や送迎時等話し合いの機会が持てている。	1年の中で1回のダンスやお祭り等の地域交流を行うことも目標として、その他にも事業所の様子が理解できるように機会を設けていきたいと思っている。
3	記録が写真付きで目標ごとになっておりわかりやすい。	HUGのシステムを導入しており、個別支援計画に基づいた記録を心がけている。	事業所で起きている事実、そこに対する支援内容、結果どう変化したのかを職員1人1人が書けるようにしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練や災害への対応、対策についての説明、周知が足りない。	カリキュラムの中に取り入れており、予定表では出しているが具体的にいった内容が参加者のみにわかる形になっていること。	災害に対応できるような動きの提示や振り返りをして共有していくようにしていく。
2	カリキュラムの立案がチームとして行えていないときがある。	考えられる職員が決められていることもあり、意見を共有できる場面が減っている。	意見を共有できる機会を定期的に持つていくことでどの職員からも出せるように告知していく。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	1年ずつ交流の機会を増やしているが、イベントになってしまい普段からの交流は現状難しい。	地域を巻き込んだイベントの開催やフェスなど今後も考えてきたい。